



# 学校だより

5月号

令和3年4月30日

## 水泳学習について

校長 高橋義成

昨年度は休校の時期が長く、児童の健康診断を水泳時期の前に実施することができませんでした。感染の対応についても手探りの状況があり、子どもたちをプールに入れてあげることができませんでした。先日、スポーツ庁からは、消毒作業を加えながら「授業中、児童生徒に不必要な会話や発声を行わないように指導するとともに、プール内で密集しないよう、プールに一斉に大人数の児童生徒が入らないようにすること。プール内だけでなく、プールサイドでも、児童生徒の間隔は2m以上保つことができるようにすること。」との連絡がありました。今年度は、十分に対策を取って少しずつ水泳の授業を行うようになると思われます。しかし、2m確保するには、本校のプールでは1クラスの人数が限界です。実施にあたっては、指導体制の全面改定が必要です。

お隣の韓国では、2014年以降に小学校3年生から6年生に水泳授業が始まりました。まだ、学校にプールはほとんどないため、指導の中心は救命胴衣のつけ方などが多いそうです。その背景にはセウォル号事故で当時の高校生250名が亡くなったことと関わりがあると聞きました。

学校で水泳学習を行うときに私たちが思うことは、水との付き合いは一生であり、一生無事故でなければならぬということです。子どもたちが近隣のプールやご家族と出かけた際の海、川などで安全に水と関わることができるようになってほしいと願っています。



### ◆水と関わる前

- ①検温（平熱を知っている子） ②睡眠度 ③食欲（朝食は大切） ④便の様子 ⑤目・耳・鼻・のどの様子 ⑥つめや頭髮の清潔さ において自分と向き合える子どもに育てるよう指導しています。

### ◆水とのかかわりの中で

- ①気温・水温を確かめる ②風の強さから体感気温を考え、水慣れの時間を調節する ③準備運動は汗をかかない程度で行う ④水慣れは、心臓から遠い体の部位順に水をかける ⑤静かに水に入る（この時の観察が大切です） 低学年の「水の中を移動する運動あそび」から中学年の「浮いて進む運動」、高学年の「クロール」「平泳ぎ」「安全確保につながる運動」へと学びが繋がっていきます。

近隣のプールに行ったときに、横浜の子どもたちが、気温・水温の表示を見て、準備運動や水慣れを順序良く行ってくれたなら、という願いと共に、プールサイドにポイントを打つなどして児童同士が距離を保てるように計画し、お示しできるようにと考えております。

いま ねんほどまえ したの やしやうがっこう よこはましない ゆうすう すいえいきやうごうこう らいばる  
今から 40年ほど前になりますが、下野谷小学校は横浜市内でも有数の水泳強豪校でした。ライバル  
すえよししやうがっこう つね きそ あ りれー つるみく しやうり よこはまし ゆうしやう い じだい  
は末吉小学校で、常に競い合い、リレーなど鶴見区で勝利すると横浜市で優勝すると言われていた時代  
がありました。わたし きやういん ふにん すうねんまえ なつやす つるみく もっと れんしゆうにってい じかん  
私が教員として赴任していた 10数年前の夏休みには、鶴見区でも最も練習日程と時間  
をかけていた学校だったと思います。まいにち さんかしゃ にん こ おも だ  
を掛けていた学校だったと思います。毎日の参加者は 100人を超えていたのを思い出します。